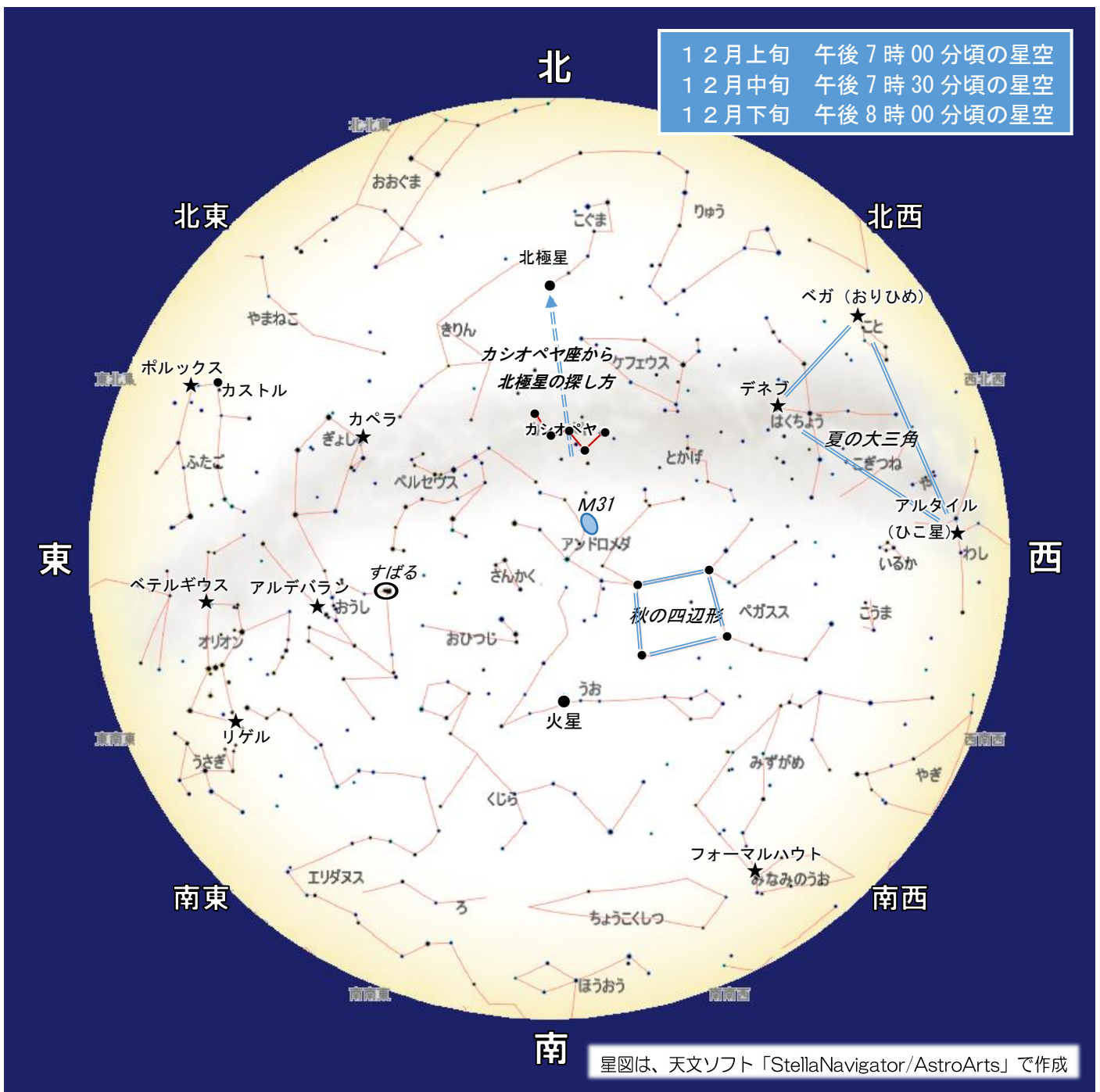


# 2020年 12月の星空案内



星図は、天文ソフト「StellaNavigator/AstroArts」で作成

## 【12月の星空 と ふたご座流星群】

21日が冬至、1年で最も星が見える時間は長くなります。日没後まもなくは、まだ西の空に『夏の大三角』が見えます。また、天頂付近にはペガサス座の『秋の四辺形』。東の空からは、ぎょしゃ座、おうし座、ふたご座、オリオン座などが上がってきます。いよいよ冬の星座たちの登場です。

13～14日を極大とする「ふたご座流星群」は3大流星群の1つです。今年は月明かりが無く、好条件です。放射点はカストル(双子座)の辺りですが、四方に飛ぶので空全体を観ると良いでしょう。

## 【土星と木星が大接近】

土星は約30年、木星は約12年で太陽の周りを公転するため、地球からは約20年ごとに近づいて見えます。今回は特に見かけの角度が小さく、21日の夕方には、約0.1度まで接近して見えます(最接近は22日午前だが日本からは見えない)。この前後には、望遠鏡で同一視野にとらえることができます。小型望遠鏡でも、木星の縞模様やガリレオ衛星、土星のリングなどが見えます。2大惑星が近づいていく様子を観察してみましょう。